

皆様、おはようございます。

連休中はご家族の皆様と賑やかに過ごしたでしょうか。田植えで忙しい日々を送られましたでしょうか。

5月に入りました。早くも一年の三分の一が終わった訳ですが、暑くなりゆく日々、どうぞご自愛いただきたく願います。

先週のカリヤ湖畔でのあたたかくも美しい出来事を思い起こします。

「子よ」と呼び、小さい子どもたちをあたたかく労う養育者、糧を食べさせ、温かい主のご家庭で育てて下さる親である神様のお姿を御言葉から味わいました。

今日はそのお話の続きです。

15 彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」。

ふと疑問に思いますのは、イエス様はどうしてペテロに、他の弟子たちを引き合いに出して、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」とお聞きになったかということです。これにはペテロの性格や、これまでイエス様の前に彼が弟子たちの間でどのような立ち位置にいたかということが関係しているように思います。

マタイ 16:15 そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。

16:16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。

16:17 すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

16:18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

「あなたこそ、生ける神の子キリストです」という信仰告白をしたかと思えば、

マタイ 16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

と、このように主に言われ、

ルカ 22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたと一緒にいく覚悟です」。

と、このように言ってもなお、

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

と言われ、

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

このこの主のお祈りの中によろしく信仰を失わずに進むことのできるペテロでしたが、いつも主はこのペテロに群れのリードをお委ねになっておられたようにも感じます。

ルカ 22:28 あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。

試練の間、弟子たちは揺れ動き、失敗し、主を否み、散り散りに逃げていきますが、それは熾烈な状況のゆえでした。熾烈な状況の中にもありましたが、そして人間の弱さの中にもありましたが、いつもペテロは他の弟子たちに勝る主への愛と献身を明らかにしてきました。そういうペテロの心を主はご存じで、「あなたは誰よりも私を愛してくれたことを分かっているよ」というニュアンスでイエス様はペテロを労い、語って下さったのではないのでしょうか。主は私たちの弱さも熱心さも、もろさもよくご存じです。その上で、私たちを理解し、信じ、期待して、そのままで行きなさいとのあたたかい励ましの言葉をお語り下さるのです。

15 彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」。ペテロは言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです」。イエスは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。

そのイエス様のお語り掛けに対し、ペテロはあなたが分かっている通り、信じて下さったとおり、ご覧になって来られたとおり、私はあなたを愛し続けますと答えました。そうしますと、主は「わたしの小羊を養いなさい」と言われました。

主は弱くももろい存在でありながら、竜頭蛇尾の時に勢いばかり勝って「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」(マルコ 14:38) ペテロに対して、こう言われました。

マタイ 16:17 すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

16:18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

人の力ではなく、天にいます父なる神の力によって。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

そしてイエス様の祈りによって。シモンと弟子たちとは支えられ、熾烈な状況の中でも信仰がなくならないようにと守られて進み続けました。

ローマ 8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。

8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

8:17 もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。

8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

8:19 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。

8:20 なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、

8:21 かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。

8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わ

たしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

8:29 神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。

8:30 そして、あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである。

8:31 それでは、これらの事について、なんとおもうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わないことがあるのか。

8:33 だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。

8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。

8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのために終日、／死に定められており、／ほふられる羊のように見られている」／と書いてあるとおりである。

8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

聖霊のうめくような執り成し。この神の愛から私たちを引き離すものはありません。

6:10 最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。

6:11 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

6:13 それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

6:14 すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、

6:15 平和の福音の備えを足にはき、

6:16 その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

6:17 また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

6:18 絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。

このようにして、弱き者であろうとも、主のあふれるお慰めの御力を信じて、私たちは助け合い、生きていくのです。

21:16 またもう一度彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。彼はイエスに言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を飼いなさい」。

21:17 イエスは三度目に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。」

主はペテロが悲しくなったように、彼の愛を信じないで3度同じことを繰り返し尋ねられたのではなく、彼の愛を信じて3度までも「わたしの愛する大切なわが子、わが羊を養ってほしい」と語られたのです。

21:18 よくよくあなたに言うておく。あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのぼすことになる。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」。

21:19 これは、ペテロがどんな死に方で、神の栄光をあらわすかを示すために、お話しになったのである。こう話してから、「わたしに従ってきなさい」と言われた。

かつては「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」と言われるまでに、彼は時に「自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわって」いました。時に良く、「神のことを思わないで、人のことを思って」いました。しかしこれからはそうではない。主のみ声に従い、主に従いゆき、生きたくない所にまで、愛する主に従う心のゆえに、進んでいく。「わたしに従ってきなさい」という道に生きることが出来るようになるとイエス様はペテロに語って下さいました。

「よくよくあなたに言うておく。あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのばすことになる。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」とのこのイエス様の予言は、不吉な言葉のように聞こえますが、これはその逆であり、よくよくあなたに言うておくよ、あなたはもはや若い時に自分の行きたいがままに行き、したいがままに行っていたところとは違う。私についてくるもの、私に従うものとなって、実に死に至るまでも、私に忠実に従うものとなる。そうして神の栄光を現すものとなると、そのようにイエス様は言われたのでした。

21:20 ペテロはふり返ると、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのを見た。この弟子は、あの夕食のときイエスの胸近くに寄りかかって、「主よ、あなたを裏切る者は、だれなのですか」と尋ねた人である。

21:21 ペテロはこの弟子を見て、イエスに言った、「主よ、この人はどうなのですか」。

21:22 イエスは彼に言われた、「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか。あなたは、わたしに従ってきなさい」。

21:23 こういうわけで、この弟子は死ぬことがないといううわさが、兄弟たちの間にひろまった。しかし、イエスは彼が死ぬことはないと言われたのではなく、ただ「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか」と言われただけである。

主の愛された弟子とは、この福音書を描いたヨハネの事です。まだ年若かったヨハネでしたから、彼の生きているうちに主の再臨があれば良いと主は語られたのでした。年上のペテロら、その歳まわりの人たちの存命中にはイエス様が再び地上に来られる時は来なかったとしても、この持つとも年若いヨハネの生きているうちならばよもやとイエス様は語られました。そしてまた弟子たちと顔と顔を合わせて相まみえたいとのイエス様のお優しきお語り掛けがここにはあります。

しかしそれから二千年。いまだに再臨は来ていません。

私たちは黙示録を読み進めました。峻厳なる主の裁きは確かに訪れるものでありますが、主はその時を、憐れみと忍耐のゆえに今日に至るまで遅らせておられるのです。

2 ペテロ 3:8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。

3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたが

たに対してながく忍耐しておられるのである。

2テモテ 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。

2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。

21:25 イエスのなさったことは、このほかにまだ数多くある。もしいちいち書きつけるならば、世界もその書かれた文書を収めきれないであろうと思う。

そのような主のご配慮と憐れみのご計画と御業とお言葉は、今日に至るまで世界中でなされてきて、その主の憐れみは、余りにも無尽蔵であって、世界はそれを書き記して採っておくことが到底できないことであるとヨハネは語りました。そうです、主の憐れみと愛とはとこしえに、無限の愛がここにはあるのです。

詩編 136:26 天の神に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

あなたが私たちのことを理解し、信頼し、私たちに励まし、使命に生かし、互いに愛し合い、教会を築き上げていく務めの中に励ましてくださいますことをありがとうございます。困難は多いですが、主に従いゆくことは私たちの本当の生きがいですから、ついて行くべき方との出会いに感謝いたします。今週もイエス様と共に、御心のうち、祝福の内を行かせてください。私たちの祈りにお答えくださることを信じます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン